

研究分野と治療現場をつなぐ 『先端医療～治らない病気への挑戦～』 フォーラムを京都で開催／武田 隆久	02
武田病院グループ 共催 第29回日本医学会総会 『元気人トーク&健康セミナー』を開催	04
春うらら／武田 道子	06
innovation／武田 隆司	08
先端医療への貢献／武田 隆男	10
たけだインフォメーションニュース	12
ケアアドバイス 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が公表されました／西村 孝	18
くすりのお話 肺炎球菌ワクチンの定期接種について／下山 尚子	19
キッチン探訪 1日のはじまりは朝食から／白井 智佳子	20
ワンポイントフィットネス 握力のトレーニング／濱道 里美	21
ナーシングメッセージ 第21回看護学生応援セミナー報告／吉田 乃里子	22
福祉の現場から ブリッジ思いやりの会／小寺 勝／近藤 佳苗	23
京の医史跡を訪ねて	24

たけだ

たけだ通信

No.107
May 2015



今号の表紙「都をどり」

経営理念

思いやりの心

私たちは常に思いやりの心もち 患者さんに信頼される病院でありたい

私たちは人々の生命の尊厳に対する希求
健康への願いに対するニーズに応え
地域社会に信頼される病院でありたい

私たちはお互いに尊敬と協調の心もち
職員相互が信頼しあう病院でありたい

基本方針

Bridge The Gaps

「ブリッジ・ザ・ギャップス(橋をかけよう)」

武田病院グループは
患者さんとの間に思いやりと信頼のかけ橋を
地域社会との間に信義と信頼のかけ橋を
すべての職員の間心と心をつなぐ
信頼のかけ橋をつくりあげる
努力を重ねます

患者さんの権利の尊重

私たちは
患者さんの意見・立場を大切に
インフォームド・コンセントを
尊重します

地球にやさしい環境づくり

武田病院グループは地球環境の保全を
保健・医療・福祉活動
及び関連活動で常に考慮し
地球にやさしい、心がかよう、心が安らぐ
豊かな社会環境の実現に貢献します

信頼の医療に向けて

私たちは、医療とは患者様との「信頼と意思疎通」を原点としていることを深く認識し、
患者様により良い医療を受けていただけるように日々努力を重ねるとともに、次の項目を守り、
患者様の健康管理・治療・療養等にチーム医療で支援します。

①患者様の人格・価値観を尊重します。

患者様が治療や検査等を受けるにあたり、ひとりひとりの人格・価値観を尊重し、
相互の信頼・協力関係の下で医療を行います。

②良質な医療を平等に提供します。

すべての患者様に対して、良質な医療を平等に、そして、継続的に提供します。

③患者様の立場に立ってわかりやすく説明をします。

治療や検査等についての説明や情報の提供に際しては、正確に伝えるだけでなく、
患者様の立場に立ってわかりやすい説明と良好な意思疎通を行って、
理解と合意を得られるように努めます。

④患者様の意思を尊重します。

治療や検査等に際し、十分な情報提供と意思疎通を行った上で、相互の信頼・
協力関係の下、治療方法等の選択について、患者様の意思を最大限尊重し
ます。

⑤個人情報・プライバシーを厳守します。

患者様の個人情報やプライバシーは厳格に保護します。

「患者さんの権利の尊重」展開 03.07.01

ISO14001自己宣言書

武田病院グループの環境マネジメントシステムがISO14001の規格に適合していることについて自らの責任で決定し、ここに自己宣言します。

武田病院グループは、地球環境保全を保健・医療・福祉活動及び関連活動で常に意識し、
グループの果たすべき重要な課題として捉え、今後も尚一層積極的に環境活動を推進します。

08.12.15 武田病院グループ
理事長 武田 隆久

環境方針

武田病院グループは地球環境の保全を保健・医療・福祉活動及び関連活動で常に考慮し、
地球にやさしい、心がかよう、心が安らぐ豊かな社会環境の実現に貢献します。

また、関連する環境の法規、法令を遵守するとともに
関連団体における環境理念等を尊重し、自然災害等に対する安全、安心を心がけ、
組織的、継続的な改善と汚染予防、循環型社会の形成を推進します。

①省資源・省エネルギーの推進

保健・医療・福祉活動及び関連活動における省資源・再生可能なエネルギーの
利用、電気・水等のエネルギー供給の複合化を図るとともに省エネルギーを
推進する。

②廃棄物の3R(減らす、再利用、再資源化)の推進

保健・医療・福祉活動及び関連活動によって発生する廃棄物の3Rを推進する。
購入の段階で環境保全に貢献できる再利用可能な材料・商品等を積極的に取
り入れる。また、医療廃棄物の処理・廃棄については、厳重に管理する。

③安全性・快適性の推進

自然災害に対処した地域との連携、施設機能の継続に向けた改善を図り、医
療機器、薬品、食料の備蓄等を含む安全性と汚染予防の確保及び施設環境の
快適性を推進する。

④環境広報活動の推進

環境方針目的の職員への周知徹底及び利害関係者等とのコミュニケーション
を目的とした環境広報活動を推進する。

環境方針書No.2 11.08.01 武田病院グループ
理事長 武田 隆久

たけだトピックス①

研究分野と治療現場をつなぐ 『先端医療〜治らない病気への挑戦〜』 フォーラムを京都で開催



東京大学医学研究所
先端医療研究センター
先端がん治療分野
藤堂具紀 教授



大阪大学大学院医学系研究科
外科学講座心臓血管外科学
澤芳樹 教授



京都大学iPS細胞研究所
初期化機構研究部門
山中伸弥 教授/所長



京都大学iPS細胞研究所
上廣倫理研究部門
藤田みさお 准教授

生命科学をはじめ様々な科学分野の発展は、医療界においても革新的な治療アプローチを生み出しています。武田病院グループでも、こうした最先端の研究と治療現場をつなぐ努力を絶えず行っています。



武田病院グループ 理事長
武田 隆久

人類繁栄の歴史は医療発展の歴史 先人にならって絶えず研究・進歩

めざましい進化を遂げる医療ですが、なお、治療が困難であったり、治療そのものの糸口が掴めていない疾患は、皆さんが想像される以上にたくさんあります。

パーキンソン病やALS(筋萎縮性側索硬化症)などは比較的知られていますが、一般に「難病」と呼ばれるものでは、国が指定する難病が110疾患もあります。また、特定疾患と呼ばれる臨床調査研究分野の対象のものですと130疾患。これ以

外にも指定を受けていないが治療の難しい疾患が多くあります。また、いわゆる難病ではありませんが、完治や治療が難しいものでは、「がん」や「心筋細胞(一度成熟すると細胞分裂しない)」が代表的です。人類の繁栄の歴史は、見方によっては病気の治療や疾患にかからないための公衆衛生の歴史とも言えます。素晴らしい先人達が、当時、多くの人を悩ませた病気治療に挑み、抗生物質やワクチン・麻酔などの薬剤、あるいはX線透視などの検査機器など、様々な分野で道を拓いてきました。

こうした精神は現代にも受け継がれ、基礎医学分野、臨床分野、それ以外でも絶えず研究が続けられています。

1日も早い治療の実現へ 先端医療の取り組みを紹介

一口に研究と言いつてもそこには様々な内容があり、なかには大きな飛躍が期待される、まさに革新的なものがあります。

3月にはここ京都で、日本の最先端医療の恩恵を多くの人々に受けてもらう、先進医療推進機構(AIPO)と京都大学iPS細胞研究所(CiRA)の共催シンポジウム『先端医療〜治らない病気への挑戦〜』が開催されましたので、ご紹介します。

当日はまず、藤堂具紀教授(東京大学医科学研究所先端医療研究センター)先端がん治療分野)が登場し、抗がん機能を有する遺伝子組み換えによるヘルペスウイルスを新たに開発、治療薬(G47Δ)として昨年末から治験(医薬品承認申請への臨床試験)に臨んでいることを発表されました。

次に、澤芳樹教授(大阪大学大学院医学系研究科外科学講座心臓血管外科学)が、人工心臓や自己筋芽細

胞シート、iPS細胞からの治療用細胞シートが今後、重症心不全患者さんへ大きな福音となることを報告しました。

このiPS細胞の研究でノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥教授(京都大学iPS細胞研究所所長)は、iPS細胞によるパーキンソン病の臨床を目前にした、高橋淳教授ら同研究所での成果を披露しました。

また、同じ京都大学iPS細胞研究所の藤田みさお准教授がiPS細胞の倫理面について講演。その後、客席からの質問を受け、重い病気や症状に苦しんでいる患者さんや医療関係者の問いに対し、各講演者が丁寧に答えました。

今回、私は大会長としてこの先端医学推進フォーラムに関わりましたが、これら素晴らしい研究成果や治療の現状を周知するお手伝いが出来て本当に良かったと感じています。難病や重度の疾患に苦しんでおられる患者さんに、1日も早く治療を実施していただくことが出来るよう、研究分野と治療現場をつなぐ役割を担っていきたいと考えています。

これら最先端の医療をそれぞれの地域で提供することが出来るよう、当グループも一丸となって邁進してまいります。



シンポジウム「先端医療〜治らない病気への挑戦〜」
大会長として挨拶する武田隆久理事長

武田病院グループ 共催

第29回日本医学学会総会
『元気人トーク&健康セミナー』を開催

健康をテーマにした市民向けのイベント「医総会WEEK」が4月4〜12日に京都劇場で開催されました。これは、第29回日本医学学会総会2015関西の学術講演にあわせたイベントです。武田病院グループは、8日・9日の2日間に「元気人トーク&健康セミナー」を共催。人気の漫才コンビや元芸妓さんの歌手を交えて病気の体験や、生活習慣の改善など、予防の大切さについて楽しく意見交換しました。

8日のセミナー第一部では、武田病院健診センターの榎田出所長が、「糖尿病・メタボを予防する」と題して講演。榎田所長は、センターで受診された方の30年間の分析結果から、病気の変化を指摘。「高コレステロール、高血圧、糖尿病、脂肪肝が増えているが、背景にあるのは肥満で、受診者の30%にも上ります」と、メタボリックシンドロームにならないよう訴えました。



武田病院健診センター
榎田出所長

また榎田所長は、糖尿病患者さんの高齢化に伴って心疾患などの合併症に加えて、認知症やがん、骨粗しょう症、歯周病との関連性についても強調、「この10年で新しい薬剤が開発されていますので、定期的に診断を受けるなど、医師と相談しながら糖尿病と上手に付き合っていきたいです」と結びました。



医仁会武田総合病院
橋本哲男副院長

また、榎田所長は、「心不全の話」として、医仁会武田総合病院の橋本哲男副院長は、慢性心不全から急に悪化する急性心不全が約7割にのぼり、肺に血液が滞留して呼吸困難に陥ったりすることがあり、「以前は心疾患には安静が第一でしたが、現在は医師やセラピストの指導をもとに運動をしていただいています」と強調しました。



武田病院 脳卒中センター
滝和郎センター長

『元気人トーク』では、ゲストとして招かれた漫才コンビの「かつみ・さゆり」さん夫婦が、葛谷英嗣・武田病院顧問、若林詔・十条武田リハビリテーション病院院長、橋本恵・木津屋橋武田病院院長、浜崎美子・武田病院看護部長らとのトークショーに加わりました。



冒頭、さゆりさんから、20歳代から子宮の病気に悩まされ、「毎年、武田病院健診センターの人間ドックにお世話になつていんです。ペットのネコとは違うP.E.T(陽電子放射断層撮影)で全身チェックして、安心してポヨヨンがでます」と会場を笑いの渦に巻き込み、骨や糖尿病などの病気について経験談など、予防と適切な治療法について話し合いました。

2日目のセミナーでは、林田孝平・武田病院画像診断センター長が「がん検診『PETにたずねよ』」とのタイトルで、PET検診の優位性についてわかりやすく解説。「大動脈瘤に対するステントグラ



武田病院画像診断センター
林田孝平センター長



医仁会武田総合病院
心臓血管外科センター
野村幸哉部長



医仁会武田総合病院
尿路結石治療センター
東義人センター長



医仁会武田総合病院
救急医療センター
中谷嘉男センター長

フット治療』では、野村幸哉・医仁会武田総合病院心臓血管外科センター部長が、腹部大動脈瘤と動脈硬化の関係や、近年、患者さんに負担の少ない足からのステントでの治療が中心であることを説明しました。

医仁会武田総合病院の東義人・尿路結石治療センター長が「腎・尿路結石最近の動向について」、同院の中谷嘉男救急医療センター長の「心肺停止！救急車を呼んだ後に」をそれぞれ講演。その後、元祇園甲部芸妓/JAZZシンガーの真箏(MAKOTO)さんがゲストとして登場し、医仁会武田総合病院の森田陸司院長、宇治武田病院の勝見泰和院長、北山武田病院の若月芳雄院長らと交え、トークショーを行いました。

MAKOTOさんは、舞妓から歌手への転身秘話を語り、自身が乳がんになり患ってから治療と子宮頸がんの発症との闘いを明かしました。3人の院長は、手指の病気などそれぞれの専門分野の意見を述べ、またMAKOTOさんからの質問に丁寧に応えました。



右:司会の岩崎裕美さん(フリーアナウンサー)

春うつらら

異常気象の中、今年も桜花爛漫あつと云う間でしたが、清新の気を味わわしてくれました。鴨川堤には柳、桜を折り混せて心もうきうきと春を楽しませてくれました。昼間のやさしい桜の花は、夜の光に浮き出されると、濃艶とした姿に変身いたします。

二十四節気では4月5日は「清明」、4月20日は「穀雨」、春雨が田畑をうるおし、穀物の成長をうながすと言われ、昔から人々は四季折々を楽しんでまいりました。しかし、今年には春から雨の日が多く、春日に

こととて、前途不安です。医療界はいつもきびしい状態が続いて居りますが、早速政府は介護費の大きな削減を打ち出してまいりました。折角の世界一長寿国が脱落してしまうかも知れません。政府は介護の軸足を家庭へと云って居ります。医療介護の費用を削減するのが目的です。しかし核家族化の我国では老々介護やお勤めを止めてしまう方もあるでしょう。実際悲しい結果になることもあるでしょう。

戦後のGNPに貢献して来られた方々を、大切にしてもらおう社会でなければなりません。介護する人、される人がお互いに楽しく過ごせる社会でなければなりません。その為には、子供も老人も社会の手でみる必要があります。家庭からデイサービスへ、施設入所へ、ショートステイへ、病気になるれば病院へ、といくつかの施設をふくんだ生活を考え、上手に廻して行くことです。

なつたり、夏日になつたりの日々が続いて居ります。昔から水月鏡花、足元にある小さな命、一枚の葉にも語りかけてまいりましたが、今は四季折々の自然を楽しむことも少なくなつてまいりました。しかしこんな気候の中でも時期が来ると、枝先には細い芽吹きがみられるようになりません。

この時期、街には新入職員と思われるスーツ姿の若者が溢れます。新社会人として、そろそろ新しい職場に慣れて来る頃ではないでしょうか？

病院の通信簿と云われるものがあります。それは親切、丁寧な対応で医師やスタッフの方々が、患者さんに対する接し方によって、医療技術以前にその医療機関の評価を決めることにつながることも少なくありません。患者さんを親身になって気遣う姿勢が、医療機関の印象の第一歩であることを皆さんも心にかけていただくことをお願い致します。思つて居ります。

私達のグループでは地域の中核として皆様に選ばれ、地元の先生から信頼していただける病院、施設をめぐらして居ります。それぞれの病院は、特化した施設としての責務を果たしてまいりたいと思ひます。縦の絆、横の絆を大切に活気ある病院をめざして居りますので、御協力をよろしくお願いいたします。



武田病院グループ 副理事長
康生会武田病院 名誉院長
社会福祉法人 青谷福祉会 理事長

武田 道子

私どものグループにも、医療の路を生涯の仕事として選ばれた多くの新入職員を迎えました。人間、医療人のお世話にならない人はありません。人生のスタートも終りも医療人のお世話になります。自分たちが選んだ仕事にはほこりを持って頑張ってもらいたいものです。

世界一長寿国であり、世界一少子国の我国では、再生医療がどんどん進歩して来て居り、山中教授の発見によるiPS細胞が、不治の病気を救う日がやつてまいります。しかし、長寿社会の進む道は、世界で最初の



先端医療への貢献

季節のうつろいは早く、珍しく雪景色が多かった厳しい寒さの冬が去ったと思ったら、春爛漫の桜は散り、もう一年半ばを迎えました。齢を重ねるごとに、年々の過ぎ去るのも早くなり、暦を走馬灯が勢いよく回るようにさえ感じます。

さて、今年4月に「第29回日本医学会総会2015 関西」が開催され、武田病院グループも協力させていただきました。それに先立って、3月には、当グループの武田隆久理事長が大会長を務め、ノーベル生理学・医学賞を受賞された山中伸弥京都大学教授らを招いて、先進医療推進機構（AMPPO）と京都大学iPS細胞研究所（CiRA）の共催シンポジウム『先端医療〜治らない病気への挑戦〜』

しての現役時代を「じまなか」と称されたエピソードやユーモアを交えながら、ご自分の研究よりもiPS細胞研究センターで活動が続ける、パーキンソン病治療に対するiPS細胞（ドーパミン）応用の臨床を目前にした高橋淳教授、輸血に頼らない血小板や赤血球を生み出す江藤浩之教授、不可能とされている軟骨細胞再生を実践中の妻木範行教授らの研究成果を主に紹介されました。

山中先生ご自身の研究成果はそつちのけで、iPS細胞研究センターでの環境整備や周囲への気配りを何より大切にされている、先生のお人柄をみる思いで、医療従事者の一人として今後の病院運営の目指す道への参考にしたいと考えているところです。

先ほども述べました様に、4月に井村先生を会頭とした、日本医学会総会が開催されました。武田病院グループは2日間に渡り、市民公開講座を開き、現代の医療について、当グループの専門家によるセミナーを行いました。

御存知の如く、現在は再生医療とい

を、同じ京都劇場で開催させていただきました。

隆久理事長が理事をしております先進医療機構（AMPPO）は、日本の最先端医療の現状を世界に広め、重い病気の方々に最新治療技術の恩恵を受けてもらうための活動を展開しております。当グループでもこれまでに、脊椎圧迫骨折の椎体形成術に取り組む川西昌浩・医仁会武田総合病院脳神経外科部長、不整脈心筋焼灼術の全栄和・康生会武田病院不整脈治療センター所長、脳梗塞などの血管内治療の滝和郎・康生会武田病院脳卒中センター長が取り上げられています。

う分野が発展して、移植医療の悩みを解決し始めました。山中先生のiPS細胞の開発によって、患者さん自身の細胞で体を修復することが出来るようになりました。

感染症については、抗生物質の発達でもはや感染症は、恐るるに足らずと思われたのに細菌、ウイルス、真菌が変異をきたし、抗生物質に抵抗するようになり、結核や、根絶されたと思われた天然痘が広がり、他の動物でも増え始め、人類に再感染の恐れが出てきました。

がんについては、がん細胞の発生、生存、増加の構図が徐々に解つてきて、対策が進んでいます。又、老化に関する研究も進んでいます。D.ステイプという人によると、老化を遅らせるメカニズムが見つかって、そのメカニズムを模索すれば、老年期に増える病患の発症を遅らせるかもしれないといっています。

この様に医学に関する研究は、私共の想像を超えて発展しています。これに伴って医療も変わります。そういう中で、今後10年で医療環境はますます厳しさを迎えることは違いありません。団



武田病院グループ会長

武田 隆男

講演で山中先生は、iPS細胞（人工多能性幹細胞）の発見と細胞増殖開発の成功等で、本来なら独占的に研究をすることの方が、企業倫理からは一般的ですが、難病患者さんへの1日も早い福音のためには、世界の研究者に協働してもらうことこそ、医療者の務めであると冒頭に述べられました。実際にiPS細胞は京都大学（CiRA）が基本特許を取得し、公的機関の研究者は無償でiPS細胞を作ることが出来るシステムになっています。

また山中先生は、お母さんが転倒による股関節骨折の治療中で、認知症や寝たきり防止のために時間を割いて面談の機会を持つていることや、整形外科医と

塊世代が後期高齢者（75歳以上）になる2025年には、高齢化率が30%を超える「2025年問題」がせまっています。それに伴い医療や介護の需要が大きく変化し、「高齢者を支える『ケア型』の医療」に大きく軸足を移して「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が計られています。

武田病院グループでも急性期医療分野への最先端医療と先進機器の導入は当然のことですが、リハビリテーション医療を含めたケアとケア分野でのマンパワー充実など、待ち受けている多くの課題を一つずつクリアしていく決意です。



医療法人 医仁会武田総合病院

西日本初となる最新MRI装置を導入しています

医仁会武田総合病院に最初にMRIが導入されてから30年経ちます。今では、MRIは臨床医学に欠かせない機器のひとつとなっています。日本で3T-MRIは2003年に認可され臨床使用が開始されました。今回、当院でも遅ればせながら待望の3T-MRIを導入し、2015年2月から稼働を始めました。

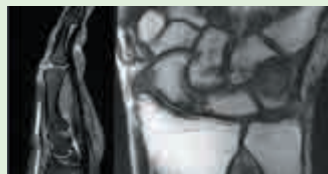
今までの1.5TのMRI装置2台のうち老朽化した1台を3Tの最新装置「Siemens Magnetom Skyra」に更新しました。このMRI装置の最新バージョンであるE11は西日本初リリース（2015年2月現在）です。



■3T-MRIの特徴■

1) 高分解能

静磁場強度が上がると画像の信号雑音比（S/N比）が上がり、ノイズの少ないきれいな画像を得ることができます。1.5Tが3Tになると、S/N比は約2倍になりますので、従来あまりよく見えなかった細かいところや、手、足など小さな部分もきれいな画像が得られるようになります。



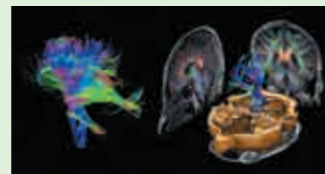
2) 血管の描出（MRA）

MRAとはMRI装置を使った血管の撮像のことです。1.5Tでも日常的に行われている撮像法ですが、3T-MRI装置ではSN比の向上や、T1値という画像を構成する要素が延長する効果により、さらに画質が向上します。

■その他の特徴■

1) MRI検査は撮像に時間が掛かるため、途中で動くとも画像が乱れます。これを補正し動きの影響を抑えた撮像が可能です。

2) 脳の神経線維の走行を画像化することができます。この手法により人体の運動をつかさどる錐体路の描出ができ、脳腫瘍の手術などに有用です。



3) 血流を画像化する検査（MR perfusion）も脳全体を細かく撮像できます。

4) 体幹全体の拡散強調画像を撮像しPET検査の様な画像が得られます。

（画像提供：シーメンス・ジャパンKK）

医療法人 財団 康生会 武田病院

院長就任のごあいさつ

本年4月1日付で、院長を拝命いたしました。武田グループの理念である「思いやりの心—信頼の医療」を実践してまいります。患者さんに信頼され、職員が信頼の絆で結ばれ、そして地域から信頼を得られる病院であることを目指し、患者さんに最適な、高品質の医療を安全に提供できる体制を充実していきたいと考えています。

超高齢社会を目前に、医療・介護の一体改革を目指した地域医療構想の策定作業がいよいよ今年度から本格化します。武田病院では、これまでから循環器疾患や脳卒中をはじめとする多くのセンター化機能に取り組み、救急医療、高度急性期医療の充実を図ってきました。今後、高齢化が一挙に進む2025年、さらに高齢化がピークに達し、京都乙訓二次医療圏においても人口減少が本格化するとされる2040年を迎えます。このような社会環境の変化に対応し、地域の中で、武田病院の果たす役割と提供する医療機能を明確にした「武田病院医療ビジョン」を作ることが求められています。

地域の医療、介護、福祉などの諸機関とこれまで以上に連



内藤 和世（ないとう かずよ）
康生会武田病院 病院長

1974年 京都府立医科大学卒業
1980年 京都府立医科大学大学院修了
(外科学専攻)医学博士
1985年 米国テキサス大学ヒューストン校留学
1994年 京都府立医科大学助教授
2004年 京都府立与謝の海病院院長
2008年 京都府立医科大学特任教授
2010年 京都市立病院院長
2011年 地方独立行政法人京都市立病院
機構理事長
2015年 現職

携を深め、また患者さんはじめ地域の皆さんからのご意見をいただく中で、武田病院の将来像を描きたいと考えています。「Bridge The Gaps（ブリッジ・ザ・ギャップス：橋をかけよう）」の基本方針を実現し、地域の皆さんとの間に信頼のかけ橋をつくりあげる努力を重ねてまいります。



医療法人 財団 医道会 十条武田リハビリテーション病院

痛風外来を始めます

突如働き盛りの男性を襲う痛風発作と呼ばれる関節の激痛。初期の対応を誤ると痛風発作の炎症は2、3ヶ月も遷延して、責任ある仕事を中断せざるを得なくなり、個人的にも社会的にも大きな損失となります。治療しているはずなのに発作を繰り返す方もいませんか？また、痛風発作を起こす原因である高尿酸血症が継続する事は尿路結石・痛風腎など腎機能障害のリスク、最近では高血圧や心血管イベントなど血管内皮障害のリスクでもあると言われてきています。

これら痛風発作や背景にある高尿酸血症の治療や管理に関しては日本痛風核酸代謝学会より「高尿酸血症・痛風の治療ガイドライン」が出ていますが、いまだ一般の先生方にまで普及していないのが現状です。その場しのぎの発作治療ではなく、無理なく「痛風発作を起こらなくすること」が可能であることや安全に尿酸を下げていくことが可能である事は知られておりません。発作を頻繁に繰り返す方、発作が重積する方、内臓障害のリスクもある尿酸値コントロールがうまくいかない方など、ご紹介ください。



痛風外来
(第2・第4水曜夜診：新患・予約)
*リウマチ外来(火曜日AM, 水曜PM, 金曜AM)でも痛風診療します。



益田 郁子(ますだ いくこ)
リウマチ科 部長
・日本痛風核酸代謝学会 認定痛風医
・日本リウマチ学会専門医・指導医
・日本整形外科学会専門医

医療法人 財団 康生会 北山武田病院

市民公開講座について

北山武田病院で推進する、「生活習慣病予防～歯科口腔外科～美容のトータルケア」に関する知識を広げたいために公開講座を実施しています。毎回、当院の医師が各々の専門の診療分野について、一般の方でも判りやすいように工夫をして1時間程度のお話にまとめています。今後も定期的な開催を予定しておりますのでお気軽にご参加ください。(参加費無料・予約不要です)



【過去の講義】

第1回	「8020運動と全身のかかわり」 ～80歳まで20本の歯を残しましょう～	1月24日	講師 歯科口腔外科 坂下部長
第2回	「血管を若く保つために」 ～めざそう!血管のアンチエイジング～	3月7日	講師 中江副院長
第3回	「胃の老化」 ～ピロリ菌と胃がん～	5月23日	講師 若月院長

宇治武田病院

2015年1月より、肝臓内科部長として着任しました

消化器内科から、肝臓部門を分離・独立させる形となりました。ただ、消化器内科とは非常に相関する分野ですので、消化器内科の先生方や外科の先生方とうまく連携を取りながら診療していきたいと考えています。私の診療基本姿勢は、患者さんの健康問題に関して、医者任せにするのではなく、ご自分で方針を決定していけるようサポートさせて戴く(自己決定権の尊重)ということです。そのために必要な専門的知識と情報を充分ご説明します。

また、縁あって20年来京都肝炎友の会という患者会でお世話させて頂いており、ウイルス肝炎独特の様々な差別に

対するサポートもして参りましたので、必要であれば外来診療とは別に時間を取って相談に乗らせて頂きます。



小畑 達郎(こばた たつろう)
肝臓内科 部長
・1983年 京都大学医学部卒業
・日本内科学会認定医
・日本消化器病学会専門医・指導医
・日本肝臓学会専門医
・日本超音波医学会超音波専門医

肝臓内科の概要紹介

肝臓病の診療は大きく変わりつつあります。大きな柱であり続けたのは、B型、C型の慢性肝炎→肝硬変→肝癌の一連の流れですが、C型肝炎についてはここ数年以内に、「ほとんど治る」時代に到達しつつあります。肝硬変になっていても、腹水や黄疸、意識障害(肝性脳症)がない「代償性肝硬変」の方は、内服薬だけでC型肝炎ウイルスを消すことができる可能性があります。切れ味の鋭い直接的抗ウイルス薬に関しては、薬剤耐性を十分考慮に入れて診療方針を立てていきます。

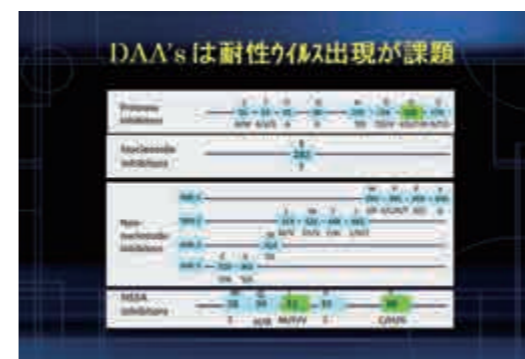
B型肝炎の新薬も次々出現してきています。B型肝炎ウイルスを内服薬で落ち着かせたあと、インターフェロン治療を導入するなど、肝癌のリスクを低減して、内服薬を終了してフォローする目途が立ちつつあります。

腹水が溜まる、あるいは意識障害(ぼーっとしたり、異常な行動をとったり=肝性脳症)という肝硬変の合併症に対しても近年新たなお薬が出現、または開発中です。

肝癌の内科治療も発展し、早期に診断し、対処すれば5年生存率が60%を越す時代に突入しています。局所治療法(ラジオ波焼灼療法やエタノール注入療法)、経カテーテル治療、肝切除(手術療法)から、放射線療法・更に肝移植まで、自施設ではできない場合は専門施設と連携して切れ目のない医療を提供していきます。

内臓脂肪が貯留するメタボリックシンドロームの肝臓での現れ、として近年NAFLD(非アルコール性脂肪性肝疾患)、NASH(非アルコール性脂肪肝炎)が激増しております。脱メタボは、患者さんと「ともに頑張る」自分自身の課題でもあり、確立した治療法のないこの分野でも患者さんとともに解決法を探っていききたいと思えます。

以上のように肝臓内科では新たな医学の進歩を取り入れつつ、ともに歩む肝臓病外来に取り組んでまいりますのでお気軽にご相談ください。



外来診療担当医一覧表

		月	火	水	木	金	土
肝臓内科	午前		小畑				第1 小畑
	午後				小畑		

医療法人 医仁会 老人保健施設 **いわやの里****回想法や生活リハを提供する「認知症専門棟」**

居室の一部を改修し、2014年9月1日に、2階を認知症専門棟35床(入所対象者:認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲa~Mの方)としてオープンいたしました。4人部屋であった居室を雪見格子の似合う和風のデイルームに設え、黒電話や足踏み式ミシン等を配して、昔懐かしい空間を演出しています。準備段階では、認知症ケア専門士を中心にした研修を行い、安心してケアを受けていただく体制を整えました。また、リハビリスタッフが中心となり、音楽療法や男農園に取り組んでまいりましたが、現在介護職も加わり、小集団の回

想法やキッチンを活用した調理にも取り組んでいます。回想法では語りを通し、過去の記憶をひもとき、若かりし頃を思い出し、調理では見事な腕前を披露されています。

生活の中でリハビリテーションは、様々な場面で自身の“力”を発揮していただいています。力を発揮する事の“連続”が、その人らしさの再構築につながります。認知症専門棟は利用者の方々が生き活きとした生活のハリを取り戻せるよう、今後も多職種連携でつとめてまいります。

社会福祉法人 青谷福祉会 **ヴィラ山科****認知症の方を対象とした「オレンジデイサービスセンター」**

ヴィラ山科オレンジデイサービスセンターは、認知症の方を対象に日常生活の支援や、介護者の介護負担の軽減を担うために、2012年8月1日に開設された定員12名の通所介護施設です。

当センターでは、利用者さんの個性を理解し、お一人おひとりの能力や所持機能を最大限に引き出すために、個別でのかわりを大切にケアを心掛けています。

具体的には、身体機能に合わせて行う体操や施設の中庭で季節を感じていただきながらの歩行練習、お裁縫や折り

紙、おやつ作りを通じて手先を動かし心身の活性化を楽しみながらおこなえるような機能訓練を実施しています。

また、施設の周辺を散歩したり、スーパーや図書館、外食など積極的に出かけ、社会参加の機会を設けています。

今後も、「いつも誰かが、そばにいる」居心地のよい空間や時間を利用者さんに提供し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活ができるサポートを続け、地域の認知症ケアの拠点となって、地域に信頼される施設を目指します。

指定管理者 医療法人 医仁会 **精華町国民健康保険病院****透析送迎車を増やしました**

精華町国民健康保険病院では透析送迎車に軽自動車を導入しています。

これまで古い住宅地では細い道が多くあり、ご自宅前まで進入しづらいところもございましたが、これにより、よりスムーズに送迎することができるようになりました。

ご利用の際には透析スタッフまでご相談下さい。

旅行透析(臨時透析)も随時受け付けておりますので、ぜひ当センターをご検討下さい。
受付時間9:00~17:00
電話:0774-94-3251
(透析直通)

医療法人 財団 宮津康生会 **宮津武田病院****病院機能評価機構の認定病院になりました**

病院機能評価とは、病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みです。評価調査者(サーベイヤー)が中立・公平な立場にたつて、所定の評価項目に沿って病院の活動状況进行评估します。評価の結果、明らかになった課題に対し、病院が改善に取り組むことで、医療の質向上が図られます。

当院では、2013年度からの取り組みとして昨年9月に病院機能

評価を受審しました。受審の結果、今年2月に認定証を日本医療機能評価機構より頂くことが出来ました。目には見えにくい病院職員一人ひとりの取り組みの成果を形にすることが出来ました。

職員にとつてのやりがい、患者さんには医療の質の向上の証として、今後も研鑽を積んでいきたいと思ひます。

**木津屋橋武田病院****「定期的な通院が困難」「できるだけ自宅で療養生活を送りたい」など木津屋橋武田病院では症状に応じ、訪問診療・往診を行っています**

患者さんとご家族のご希望や状況等を伺った上で、症状に応じて定期的に訪問診療をさせていただきます。急変時にも臨時往診にお伺いできる体制を整えております。

また、当院の地域医療連携室が、関係医療機関・ケアマネジャー・訪問看護師と言った方々との連携も積極的に行っています。

まずはお気軽にご相談ください。(在宅療養のご相談もお伺いします)

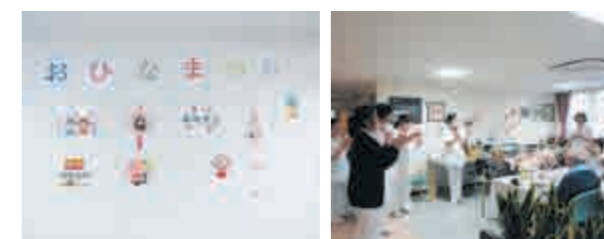
木津屋橋武田病院 代表 075-343-1766 訪問診療担当

医療法人 財団 医道会 **稲荷山武田病院****3階緩和ケア病棟において、ひな祭りを開催しました**

手作りの小さなお雛様を3階病棟のホールに飾り、患者さんやご家族の方々と一緒に写真を撮ったり歌を歌ったりと、楽しいひと時を過ごすことができました。特に、病棟スタッフが点てた抹茶と和菓子の相性がぴったりで、大変好評でした。

短い時間でしたが、季節の変化と優雅な気分を感じていただけたのではと思っています。「その最後の日以前から始めるグリーフケア」の一つとして始めた季節を届ける行事を、今後

も続けていきたいと思ひます。



肺炎球菌ワクチンの定期接種について

今回の薬の話は肺炎球菌ワクチンについてです。

ワクチンとは、ヒトなどの動物が生まれつきもっている免疫能力を活用して、感染症を予防するために作られた製剤のことをいいます。ワクチンには不活化ワクチンと生ワクチンがあり、肺炎球菌ワクチンは不活化ワクチンに分類されます。

肺炎は、高齢であつたり病気があつたりして免疫力が弱まった時に、細菌やウイルスが入り込んで起こる肺の炎症で、急に重症化することもある感染症です。しかも、日本人の死因の第3位で、亡くなる人の約95%を65歳以上が占めており、高齢者にとっては軽視できない疾患です。

肺炎球菌ワクチンは、肺炎の原因菌としてさまざまな種類のある中で、最も多い肺炎球菌による肺炎を予防します。このワクチンを特定の地域で高齢者に接種したところ、肺炎にかかる人が減り、他の地域より医療費が削減できたという報告があり、その結果、昨年度より全国で肺炎球菌ワクチンの定期接種の制度が始まりました。

定期接種とは「予防接種法」という法律に基づいて市町村が実施する予防接種のことです。肺炎球菌ワクチンに関しては、今までにこのワクチンを1度も接種したことがない人を対象に、65歳以上の人に、生涯に1回、定期接種の機会を設けてい

ます。2015年度（2015年4月1日～2016年3月31日）では、今年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる人が対象で、今年度中に接種した時のみ公費の助成が受けられます。2018年度までは、その年度に65歳、70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳になる人が対象となり、2019年度からは、満65歳の人のみが対象になります。ただし、60歳以上65歳未満でも心臓・腎臓・呼吸器・免疫のはたらきに障害がある人は公費助成の対象です。また、対象の期間内に接種しなかった場合や対象外の場合は、任意接種となり全額自己負担です。つまり、対象年度に接種しないと公費の助成が受けられないことになります。

肺炎球菌ワクチンは、毎年接種するのではなく、1度接種すると再接種まで5年以上の間隔を空ける必要があります。また、季節を問わず1年のどの時期に接種してもよいワクチンです。「自分は元気でまだ大丈夫!」と思いたいところですが、肺炎を軽く考えないで、1人1回の公費助成の機会を逃さないようにしたいものです。

(公費助成については自治体によって異なりますので、お住まいの市町村でお尋ね下さい)

精華町国民健康保険病院
薬局長代理
下山 尚子



認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)が公表されました

1月27日、厚生労働省は「認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)」を公表しました。これは、2013年度から厚生労働省が進めている「認知症施策推進5ヵ年計画(オレンジプラ

ン)」に代わるもので、厚生労働省が関係機関と共同で検討してきたものです。その大枠は、以下の通りです。

認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)

～認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて～の概要

- 高齢者の約4人に1人が認知症の人又はその予備群。高齢化の進展に伴い、認知症の人はさらに増加
2012(平成24)年462万人(約7人に1人)⇒(新)2025(平成37)年約700万人(約5人に1人)
- 認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことができるような環境整備が必要。

新オレンジプランの基本的考え方

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

- 厚生労働省が関係府省庁(内閣官房、内閣府、警察庁、金融庁、消費者庁、総務省、法務省、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省)と共同して策定
- 新プランの対象期間は団塊の世代が75歳以上となる2025(平成37)年だが、数値目標は介護保険に合わせて2017(平成29)年度末等
- 策定に当たり認知症の人やその家族など様々な関係者から幅広く意見を聴取

七つの柱

- ① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

基本的考え方にあるように、新オレンジプランでは、認知症の人の意思を尊重し、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるための社会の実現が目指され、その具体的な取組や数値目標が定められています。

4月1日の介護報酬改定でも、地域包括ケアシステムの考えに基づき、認知症高齢者への更なる対応の強化が図られ、通所系サービスには認知症ケアに関する新たな加算の創設が行われました。

もはや認知症は他人事ではありません。武田病院グループでも通所系サービスの新加算の算定を目指し、体制の見直し強化を進め、認知症になっても安心して生活できるコミュニティ作りの一翼を担って参ります。

社会福祉法人 青谷福祉会
特別養護老人ホーム
ヴィラ稲荷山 次長
西村 孝

握力のトレーニング

京都市より委託を受け、下京区にお住まいの65歳以上のお元気な方(要支援・介護認定非該当)に地域の会場をお借りして出前の教室(運動・栄養・口腔教室など)を開いている健康運動指導士です。教室に参加されている方から「最近缶の蓋が開けにくくなった」、「ペットボトルの蓋は固いので誰かに開けてもらう」という意見をよく耳にします。また、「握力はどのようにつけるのですか」と質問してくださる方も多くおられます。握力は弱くなるとドアを開ける・瓶の蓋を開ける・買い物袋を持って移動するなどの動作に支障がでるため、日常生活にも影響があるといわれています。握力は①握

る力、②つまむ力、③握り続ける力、④開く力があります。また、筋力は鍛えたい筋肉とその反対の筋肉(拮抗筋)を鍛える必要があります。握力も同様に握る筋肉を鍛えるためには、反対の開く筋肉を鍛える必要があります。

握力は男性26kg、女性18kgが必要とされていますので、今回ご紹介する運動を行ってみてください。

京都市下京区
地域介護予防推進センター
健康運動指導士
科長代理
濱道 里美

握力

1. 握る力
2. つまむ力
3. 握り続ける力
4. 開く力

「運動をする際の注意点」

- 使っている筋肉に意識をして、痛みのない範囲で行いましょう
- 5~10秒間ほどかけてゆっくり力をこめましょう
- 声を出して数をかぞえながら行いましょう
- 回数は8~15回を目安に、「ややきつい」と感じる程度で行いましょう

「握る力」

手首の屈曲



手のひらを上にした状態で、手首を上下させる。

手首の伸展



手の甲を上にした状態で、手首を上下させる。

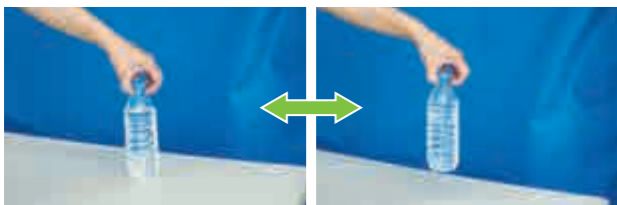
新聞握り



ボールを握ったり放したりを繰り返す。左右両方行う。

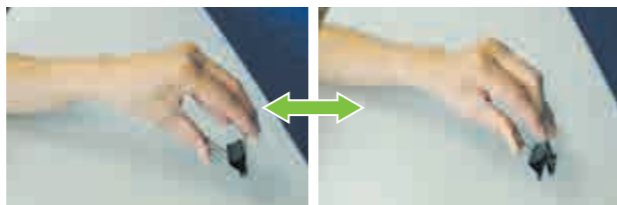
「つまむ力」

ペットボトルつまみ



ペットボトルの蓋を指先で持ち、上げ下げする。重さは水の量やペットボトルの大きさと調節する。

クリップつまみ



クリップを指先でつまむ。強度は洗濯ばさみ等のものを使用し調節する。

「握り続ける力」

靴や買い物袋を持って維持する



ご自身に合わせた重さのものを一定時間持つ。

「開く力」

輪ゴム開き



指先に輪ゴムをはめ、広げようとする。強度は輪ゴムの本数で調節する。

お風呂やバケツに水を入れた中でグーパーと繰り返す

1日のはじまりは朝食から

○平成25年「国民健康・栄養調査」の結果では、男女共に(20~30歳代)年齢が若いほど「朝食を食べていない人」「朝食を単品で済ませる人」の割合が多い傾向にあります。

★朝食の効果

- 脳の働きを活発にし、集中力や記憶力が高まる
- 便秘解消 ○体温が上昇し、代謝が高まる
- 疲労感が少ない

○食べない方は「まず1品」から、次に目指すはバランスと不足しやすい野菜を取り入れた「One Dish(ひと皿)」を

★簡単朝食作りのコツ

- 夕食でまとめ作りを ○包丁要らずな簡単食材の利用を
- 冷凍食品や缶詰使用で時短を ○電子レンジ使用で手軽に



医療法人医仁会 いわやの里
栄養科 管理栄養士
白井 智佳子

あなたは和食派?洋食派?いずれのタイプでも使える 簡単朝ごはん例

○主食がパンの場合

【シーフードと春野菜の和風チャウダー】156kcal(1人分)

材料(4人分)

- (A) ベーコン 15g、玉ねぎ 80g、人参 20g、じゃがいも 80g、生しいたけ 20g、むきえび(冷凍) 90g、あじの水煮缶 130g(1缶)、大豆(水煮) 80g、サラダ油 小さじ1
(B) 白味噌 20g、牛乳 160ml、だし汁 180ml
(C) 菜の花 20g、塩 適量

《作り方》

下準備

- ①(A)の材料は1cmの角切りにする。
- ②(C)の菜の花は軽く塩茹でして、3cm幅に切っておく。
- ③(B)はあらかじめ混ぜておく。

調理

- ④鍋にサラダ油を入れて、ベーコンをやや焦げ目がつくまで炒めたら(A)の残りの材料を加え、しんなりするまで炒める。
- ⑤(A)の材料がしんなりしてきたら、むきえび・あじの水煮缶・大豆の水煮、(B)を入れ煮る。沸騰してきたら、弱火で5分煮る。
- ⑥仕上げに水溶き片栗粉でとろみを付けて器に盛り付け、(C)の菜の花をのせる。

(ポイント)

前日に用意をすれば、朝は温めるだけで召上れます。

(メニュー)

- ・パン(ジャム)
- ・シーフードと春野菜のチャウダー
- ・いちご
- ・紅茶



○主食がごはんの場合

【みつばと鶏ささ身のポン酢和え】92kcal(1人分)

材料(4人分)

- みつば 160g、鶏ささ身 4本、ぼん酢 大さじ1、塩 適量、白ゴマ 大さじ1

《作り方》

下準備

- ①みつばは塩茹でして、水を絞り3cm幅にカットしておく。
- ②鶏ささ身は塩茹でしてほぐしておく。

調理

- ③①②をボールに入れ、ポン酢を加えて和える。
- ④器に盛り、お好みで白ゴマをかける。

(ポイント)

前日に下準備をしておけば朝は和えるだけでできます。野菜はほうれん草やブロッコリーなどで代用できます。

(メニュー)

- ・ごはん
- ・みそ汁
- ・生揚げの網焼き
- ・みつばと鶏ささ身ポン酢和え
- ・いちご



タケダメディカルフーズサプライセンターのお弁当、「季節の健康御膳」が京都府の「健康ばんざい 京のおばんざい弁当」に認定されました!

「健康ばんざい 京のおばんざい弁当シリーズ」は、先人の様々な知恵が盛り込まれている「おばんざい」の良さを活かし、「おいしさ」と「健康」の両立を目指して京都府が企画したお弁当シリーズです。
8項目の厳しい規格基準を満たし、京のおばんざい弁当普及推進協議会において認定されたもので宇治武田病院ベーカーリーカフェ「セリエ」で販売されていますので是非ご賞味ください!



第21回看護学生応援セミナー報告

武田病院グループ
看護部人材センター
センター長
吉田 乃里子

武田病院グループでは、2008年より看護学生を支援するセミナーを開催しています。2015年3月22日(日)キャンパスプラザ京都で、最終学年を迎える39名の看護学生を対象に看護学生応援セミナーを行い満足度90%と好評を得ることができました。(詳しくはHPをご覧ください)

企画を担当したブリッジの会のメンバーは、自らの参加経験を活かして、「仲間との交流」「不安軽減」をねらいとして準備をすすめていきました。



ワークの様子

《プログラム》

- 自己紹介とグループ対抗ゲーム
- 情報交換「学生生活・実習での悩みや不安」
- 先輩看護師の体験談
- 『質問にお答えします!』

『漢字ゲーム』では、「一気に会話が弾み、知恵を出し合ってチーム力を発揮しているグループもありました。また、グループワークでは、これからの臨地実習や卒業論文作成など学生生活に即、活かせる



ゲームの様子「急には思い出せない…」

ようなアドバイスを受け、さらには1年後の自分をイメージした様々な質問が寄せられました。個別相談コーナーを設けるなど、毎回、工夫を凝らした企画となっています。

今後も武田病院グループでは、看護師を目指す高校生や看護学生の応援を継続すると共に、「看護職の魅力」や「やりがい」を生む声で伝える機会を設けてまいります。

看護学生からの質問ベスト3

- 1) 学習・実習について
 - 看護学生の間にしてよくよいこと
 - 国家試験勉強法、一日の学習時間について
 - 実習指導者担当者から学生へ期待すること
- 2) 各施設の特徴について
 - 配属先について
 - 職場の雰囲気について
 - 寮生活について
- 3) 入職後について
 - 同僚、他職種との協働
 - ストレス発散法、悩み相談
 - 先輩看護師の心に残った看護体験

介護・福祉の現場から

ブリッジ思いやりの会

近年の介護現場の実態をあらわす表現として、「一般的に離職率の高さ、慢性的な人材不足、質の低下等がよく挙げられます。当グループも例外でなく、優秀な人材の確保に苦慮している現状にあります。特別養護老人ホーム(ヴィラ山科・加茂の里・ヴィラ稲荷山・ヴィラ鳳凰)4施設、老人保健施設(白寿いわやの里)2施設から若手職員(2011年度以降入職をそれぞれ1名選出、介護人材確保に向けたアピール活動チー



ムとして「ブリッジ思いやりの会」を2014年7月31日に発足しました。

【活動の目的】

- 1、当グループの強み(スケールメリットやネームバリュー)を活かしながら、施設の取組みを広くアピールする機会を多く持ち、優秀な人材を確保できるように外部に向け働きかける。
- 2、介護の仕事の魅力リアルに伝え、職場のイメージアップを目指す。
- 3、在職者が「仕事の魅力」を再認識することで、「やりがい」を持ち働ける。



就職フェア

本部 福祉事業部長 小寺 勝
人材センター
介護職確保対策室長 近藤 佳苗

【活動が目指す成果】

- 1、介護の魅力とやりがいを感じ、働きたいと思う若者が増える。
- 2、私たちの活動を見た人が就職フェアに足が向き、話を聞きにきてくれる。
- 3、施設や介護に興味・関心を持ち、見学から就職に繋がる。
- 4、在職者が仕事のやりがいを再認識し、笑顔でケアができる。
- 5、メンバーが本活動を通じて行動力・発信力を高められることによりグループに寄与できる。

【現在に至るまでの活動】

- 1、月1回の会議にてアピール方法など検討(計8回)
- 2、採用案内(パンフレット)作成
- 3、京のまち企業訪問「業界研究会」への参加(2015年1月15日・みやこめっせ)
- 4、福祉職場就職フェアへの参加(2015年3月3日・メルパルク京都)
- 5、学内合同説明会への参加(2015年3月14日・佛教大学)
- 6、高等学校出前講座(塔南高校・城南麦創高校)への見学参加

ブリッジの会を卒業するメンバーのコメント

- 活動を通して、多くの高校生や看護学生と出会えたことは貴重な経験で、自らの体験を語りながらも、一方で大変なパワーをもらっていたことに気づいた。
- 同世代の仲間から刺激を受けたり、目を輝かせて私の話を聞いてくれる後輩に出会ったことで、モチベーションを維持できた。プレゼン力をつけることもできた。
- 他施設の看護職や多くの人と関わる事が出来たことは大きな収穫だった。会話力が身についた。

病院見学や就職を希望される方、ブリッジの会の活動を詳しくお知りになりたい方は、下記、武田病院グループ看護部人材センターへご連絡、お問い合わせください。



TEL : 075-354-7117 FAX : 075-353-3839
e-mail:nurse@takedahp.or.jp
URL:http://takedahp.or.jp/nurse/

※ブリッジの会=武田病院グループの看護の魅力伝えるプロジェクト

今後の活動もメンバーの自主性、自立性を最大限配慮し行なってまいります。また、今後も大学、短期大学、専門学校、高校など要請があれば訪問させていただきます。介護の魅力・当グループの魅力発信を行ってまいります。今後の活動には是非ご期待下さい。



国産初期のレントゲン装置(X線撮影機器)が、「島津製作所 創業記念資料館」に残されています。明治29(1896)年、ヴィルヘルム・レントゲン博士がX線を発見した11カ月後に、二代目島津源蔵が第三高等学校(現・京都大学)との協働で、X線撮影に成功させました。その後の医療や科学の発展に多大な貢献を果たす源蔵の足跡をたどります。



島津製作所 創業記念資料館

初代島津源蔵が、現在の資料館所在地で理化学器械製作場を創業しましたが、55歳で他界します。家の手伝いのため、小学校へは1年半しか通うことができなかった長男の梅治郎(二代目源蔵)ですが、早くから科学知識に興味を持ち「都をどり」でアーク灯を点灯、その半年後の明治17(1884)年には、その後、X線写真撮影の電源となる発電装置「ワイムシャースト感応起電機」の試作に成功。「外国に頼らない、日本独自の科学技術を確立する」という初代の強い思いは、25歳で代表となる二代目につかり受け継がれました。



島津源蔵

源蔵は「日本も科学立国たるには理化学教育を確立させる以外にない」と、西欧から輸入される先端機器を教育実習用として次々制作、各地の小学校などへ

収めました。X線は、ドイツのストラスブルグ大学でレントゲン博士と研究室を共にした第三高等学校の村岡範為(むらおかはんいち)教授が研究を行っていました。高圧発電装置など理化学器械の先駆としての源蔵に協働を呼びかけます。

X線の撮影は当初、失敗を重ねたものの、レントゲン博士の発見から11カ月後の明治29(1896)年には撮影に成功、さらに、「人々の役に立たなければ意味がない」との源蔵の研究心により、翌明治30年に教育用X線装置を完成。13年後の明治42(1909)年、国産第1号となる医療用X線装置も完成させ、千葉県国府台陸軍衛戍病院(現・国立国際医療センター国府台病院)をはじめ多くの病院に納入されました。

X線撮影には、5万〜10万Vの高電圧が必要で、X線感応の性質や、レベランクが合わないという撮影は不可能です。少年期に試作した「ワイムシャースト感応起電機」が役立ったのを初め、後の画期的な発明「易反応性鉛粉製造法」による蓄電

池は、島津源蔵の頭文字をとってGSバッテリーとしてあまりにも有名です。

その他、X線技師養成のため、昭和2(1927)年には、現在の創業記念資料館を校舎として「島津レントゲン技術講習所」(現・京都医療科学大学、園部町)を開講しました。

源蔵は昭和26(1951)年10月3日、82歳で亡くなります。生涯の発明考案は178件に上り、「日本の Edison」と称されました。汎用X線装置「ダイアナ号」が資料館に常設されているのははじめ、科学の発展の歴史的展示物が見学できます。



汎用X線装置「ダイアナ号」
島津製作所 創業記念資料館 京都市中京区木屋町二条南
電話(075)255-0980 FAX(075)255-0985

メディカルジャパン2015大阪 武田隆久理事長らがテープカット

「メディカルジャパン2015大阪」が2月4日〜6日、大阪南港のインテックス大阪で開催されました。

同展は、病院・介護・医療機器・先端医療・製薬などを網羅した日本初の「医療総合展」です。「関西を日本・アジアの医療産業のハブにしていきたい」という関西広域連合の思いを受けて実現したもので、医療に関わる約660の企業や団体が出展。医療関係者約25,000人が来場し、技術相談や商談が活発に行われました。

当グループの武田隆久理事長(京都私立病院協会副会長)も参加し、松井一郎大阪府知事らとテープカットを行いました。医療のイノベーションで関西から日本を元気にしていく意義ある取り組みだと感じています。



武田隆久理事長(写真中央)

新たに初期臨床研修医14名を迎えました 【康生会武田病院・医仁会武田総合病院・宇治武田病院】

武田病院グループでは、今年度も新たに初期臨床研修医を迎え入れることが出来ました。

初期臨床研修医は、2年間の研修プログラムでプライマリ・ケアから救急医療、地域医療など専門分野から一般的な日常診療まで幅広く学び、将来専門とする分野にかかわらず、常に患者さんを思いやる気持ちを持ち、医師としての人格を涵養し、医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる疾病あるいは負傷に適切に対応するための基本的な診療能力、求められる態度や姿勢を身につけていきます。

今後も当グループでは、医師をはじめとする医療従事者の育成を通じ、地域医療の発展に貢献していきます。どうぞ宜しくお願いします。



前列左から 岸本尚也医師(医仁会)、大石健医師(医仁会)、倉橋光輝医師(医仁会)、竹田一博医師(医仁会)
後列左から 齊藤正興医師(康生会)、矢野鉄人医師(康生会)、岩木亮介医師(康生会)、
平川寛医師(宇治・歯科)、世野統之先生医師(医仁会・歯科)、中村碧医師(医仁会)、林美里医師(医仁会)、
花山亜沙医師(医仁会2年次)、花山寛朗医師(医仁会2年次)、山下正真医師(医仁会)



TAKEDA HOSPITAL

<http://www.takedahp.or.jp/>

たけだ [第107号]

- 発行人 / 武田隆久
- 発行所 / 京都市下京区塩小路通西洞院東入ル
医療法人財団康生会武田病院
TEL 075-361-1351(代)
- 編集人 / 「たけだ通信」編集部
- 発行日 / 平成27年5月25日
- 制作 / (株)日本医療企画



帯に描かれた [みつばちと皀月の花]
橋本由美作